

萬正徳雛形全巻

大和徳師 西川祐信圖

并ニ男女流彩紙の整り紋

才一

流彩紙と金文模様

才二

町方の横柄の色紙整り

才三

一切遊女の横柄の流彩紙

才四

風流の浴衣横柄の

才五

地着流と野良の横柄

右の才

正月二日分出

八文字屋八方巻

世流曾我 十巻惣目録

付 好色一代流 幸人 曾我の傍紙子

一之巻

曾我乃先祖是根の根元 伴東祐親

二之巻

工者祐経六条一と 所領双傳之事

三之巻

十郎と母が出所 東小次良が実父 鬼王園三郎が

四之巻

来由河津候様お撲 祐泰を江八橋討之事

五之巻

河津の母が我へ改嫁の因縁 并ニ大磯乃

右之巻

和国最盛方便の大酒壺 祐経が娘白菊

門 遠
號 669
卷 1



明治三十八年 九月十一日 講求



御伽曾我 風流東鑑

付 忠孝倭奸二筋の纏のいさめ

六之巻

三浦与市大房丸大磯を傷着五人の筋

七之巻

仁田四郎忠重とわらじ若我兄弟の難儀と終事

八之巻

中田次郎重忠の命とて計略のむねの筋

九之巻

手越の龜菊時宗二云の契約兄弟年未の

十之巻

又び六巻三二 二月期日分中出中いさる初合十巻也

當世御伽曾我 一之巻目録

第一 名王河ついでとらと矢へ家世巻れ

付 焼く及へ海つる研屋が思案。瑞乃
付 此中より肉焼く。熱くし服へぬけ
輪持の物よめり

第二 宇佐美久津美河津合三入性根

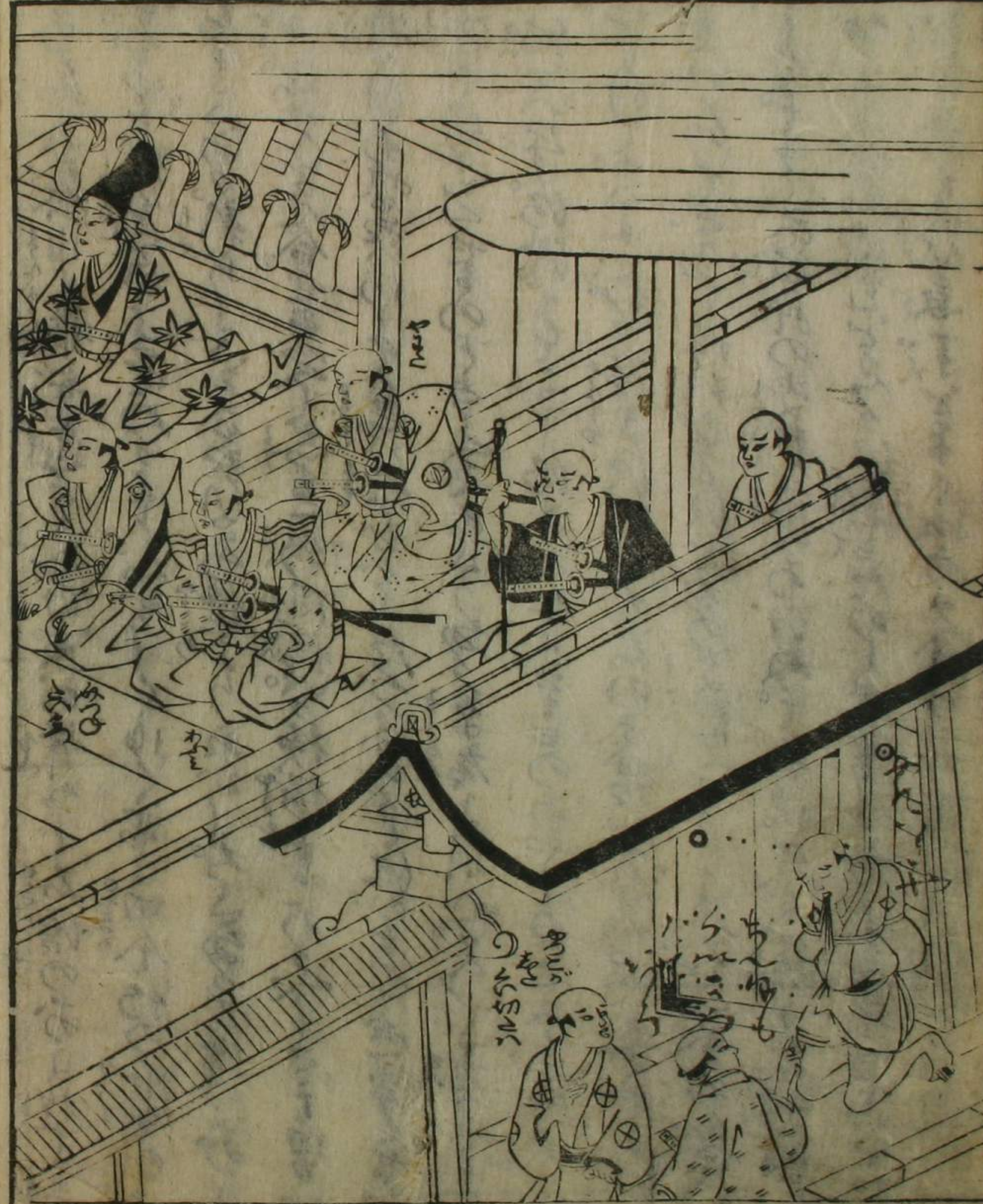
付 災がす縁くうらつらつ公事沙汰。
子ゆくと熱くし海のみざれ髪
いさる事成服くはけ智恵

七十五の節ありて重傷をうけ醫術の力をつとて黄泉に去途
よおとむらんとせしる命の内よまきとせんとして次男祐健并忠
頼孫祐親を介一家一親を病床よまきとあつめ我は夜更
染乃縁つとてそ実途よむむひくはらひて汝もとと病乞
れ直成と一又一言とのらちちちとたりよゆよす病乞とせ
ぬと一人はくのそすささしてのち病甚有痛のちにたをけ
おとされ祐元よえをえと方夫一筋成りては男は祐健よこ
たぞれをおてんよとありしがに祐健不害ながら畏て何れ難
作とたくるるかめ又病甚け及み夫は女筋候して乞と一交
りおつて見よとせおせらるに祐健力を入れてむととと又よおせ
げられは討は病甚起かをり。子は勿論一門一家の人く乞
乞とてとて我の事候はて死候よおよんでとらむとと中と

まをさくまた事あり一筋は誰れ一人懇ん成はる事と
念て死をなは討に一筋の夫れとく忽死にたつこととと
うせら事とあり親親兄弟の同いことと一味は討に我なく
かりたる物とていふが敵おきてせあすことと。大筋の夫はひら
よとらうことと。かろほらう事わえうことと。あつて一筋まじ
くをををとと。一門兄弟中ありとありとありととあるな
ら。一筋の夫はたをとくはらうことと。おんげは理とよは中とと
化はすことと。若愚たよ一家お家よに化はすわられた。家と子
孫よつととと。されが家替お徳の事。橋よと家祐家よゆり
あつたことと。我は先よ早せおねれ。ま子祐親よおゆつ
なくあり。末弟雅よておれ。おれは祐親の事。あつたことと。と
乞はらひて次男祐健の事。おれはたて三ヶ店をゆづる条。物の

祐親が中よりいぬが嫡子にきて成人の後又は家督とて
傳へば一子別順なり。比旨にうたがへる。一門一
のくくを執事と云はゆ。して祐親と一族の統緒と
たす。祐親成して又一家の所とあはせなす。とされ
に形見成しけつ。今いづれに事なり。終に家より
運て。ひやくとゆれ。祐親を傳へて。一家の
事なり。とあり。政は私なく。國は治め。祐ののりて。祐
の流に。まゝ仕。不後六位の流に。補せられて。より。まゝ
工者流に。祐親とぞ稱し。ける。南て。馬鹿と。うて。祐親
病なり。して。身心悩亂と。自誓巫頭。ある。し。ゆ。よ。かくて。
今亡命討む。ぬ。ま。は。と。甥の祐親と。振。し。押。由。是。の。父
お。祐。家。及。子。世。と。ま。は。り。て。我。公。曾。に。生。て。想。成。と。嗣。父

入。後。の。家。督。と。ま。り。又。和。友。よ。お。ゆ。つ。と。由。家。督。禰。門
の。ま。は。り。と。い。は。り。て。今。二。子。を。生。み。家。の。子。弟。供。ま。つ。く。お
と。弟。の。お。傳。り。ま。つ。す。家。督。死。て。は。い。我。子。兼。石。丸。と。又。お。傳。り。子
と。何。れ。又。傳。り。と。あ。て。一。子。を。ま。は。り。し。と。く。傳。照。し。な。す。と
ま。は。り。と。輕。へ。と。ま。は。り。げ。あ。る。と。ま。は。り。と。い。は。り。祐。親
作。り。し。ま。つ。て。い。は。り。と。ま。は。り。と。志。を。な。す。と。ま。は。り。と。連。り。て。不。後。流。友
よ。偶。い。見。氣。に。し。と。ま。は。り。と。ま。は。り。と。い。は。り。祐。親。と。ま。は。り。と。い
と。れ。の。流。に。悦。ぶ。あ。り。て。ね。あ。り。と。ま。は。り。と。い。は。り。と。ま。は。り。と。い。は。り。と。ま。は。り。と。い
と。ま。は。り。と。い。は。り。祐。親。流。に。ま。は。り。と。ま。は。り。と。い。は。り。と。ま。は。り。と。い。は。り。と。ま。は。り。と。い
始。て。修。束。流。祐。親。と。ま。は。り。と。ま。は。り。と。い。は。り。と。ま。は。り。と。い。は。り。と。ま。は。り。と。い
十。又。兼。石。丸。と。ま。は。り。と。ま。は。り。と。い。は。り。と。ま。は。り。と。い。は。り。と。ま。は。り。と。い。は。り。と。ま。は。り。と。い
卒。相。國。流。と。ま。は。り。と。ま。は。り。と。い。は。り。と。ま。は。り。と。い。は。り。と。ま。は。り。と。い。は。り。と。ま。は。り。と。い



ゆと事とわけよすれ。二門の公卿をたて。海よ八木下ゆの末待の
揺わける。えわひ海牙に付る。一板汝がお撲の事わすれ。世よ
うとかけれ。内と大相とよと。内變免わらふ。この内事あまを。目おま
と得。社ひて。内国よけよ。その作も。僕神西国を。ごう。いあ。そ
を私宅よ。うり。び。なる。大難との。れ。殊よ。今日の。内機。ほ。あ。つ。る
事。も。い。え。よ。河津の。二。高。社。泰。が。彩。り。と。三。高。方。へ。為。り。社。泰。が
け。なる。高。情。を。耐。し。い。し。く。ま。く。く。強。り。河津が。今。の。役。よ。と。え
べ。い。と。ま。い。ら。ご。と。感。と。ほ。び。さ。る。と。こ。と。り。り。な。れ

一之巻終



た
い

